

講義アンケートについて (応用数理 A: 2014 年度)

2014 05/30 担当 竹野

概要

回答は、小さい紙を講義の最初に配って、それに「講義に対する意見、質問、不満等」を自由に書いてもらって講義の最後に提出してもらいました。

回答総数は 25 名 (履習登録者 58 名中 43.1%) で、内訳は

- 特になし、このままでよい: 18 名 (72.0%)
- 肯定意見のみ: 5 名 (20.0%)
- 否定意見のみ: 1 名 (4.0%)
- 肯定意見と否定意見: 1 名 (4.0%)

となりました。重複も数えれば、

- 肯定意見 + 特になし: 24 名 (96.0%)
- 否定意見: 2 名 (8.0%)

のようになりますので、肯定的な学生が多いことにはなりますが、これには、

1. 出席を取っていないので、講義に出ているのは割と真面目な学生が多い可能性がある (回答者は 43.1%)
2. 過去の学生の意見を取り入れて「高校に近い」講義方法を採用している

履修登録者全体を対象を広げると意見も変わると考えられますが、「授業改善」に関しては講義に来ている学生の意見のみを考えれば良いだろうと思います。

また、現在の講義は「高校に近い」のですが、以前の講義は以下のような形式でした。

- ノートだけで閉じたもの (完結したもの) になるように板書にすべてを書く
- 問題の解法も多少は行なうが、現在よりは少なく、むしろ理論の解説、方法の解説に重点を置く
- 問題演習は学生の自主性にゆだねる
- 板書のスピードも現在よりかなり速い
- 必ずしも教科書に沿った形で講義をしない

大学ではむしろこのような講義が一般的であり、それにはそれなりの理由もあります。早く高校までのような受身の学習法から脱却し、大学の能動的な学習スタイルを身につけてもらいたいと思っています。

書かれていたこと

- 肯定的な意見
 - － わかりやすい (3)
 - － 字が読みやすい (1)
 - － 声が聞きやすい (1)
 - － 宿題があるのがよい (1)
 - － 私語禁止はよい (1)
- 不満や要望
 - － 少しペースが速い (1)
 - － 正面を見て (1)

(カッコ内は人数)

回答

- 少しペースが速い

現在の講義ペースは、ここ数年の講義ペースと同じです。せめてこれくらいにはついてきてください。

なお、講義ペースはかなり学生に譲歩して落としてきました。そのかわり講義の内容を削っています。これ以上ペースを落とすと、最低限知ってもらいたいことも削らないといけなくなる恐れがあります。

また、「講義中にすべてを理解したい」と思っているならば、それは大学の講義の正しい受講態度ではない、ということをもう一度確認してもらいたいと思います。

- 正面を見て

人間は、自然に人の視線を追う行動を取るそうです。私は講義で私の顔を見てもらいたいわけではなく、むしろ黒板の内容を見てもらいたいと思っています。それであまり学生の方は見ず、黒板の方を見ています。その代わりに、声は後ろまで聞こえるように大きな声を出すようにしているつもりですが、もし聞こえにくければ言ってください。

それに、私には、学生の顔を見ただけで何を考えているのかを知る能力もありませんので、そちらを見てもあまり意味はありません。

以下も参照。

- 応用数理 A のページ

<http://takeno.iee.niit.ac.jp/~shige/math/lecture/niigata-u/appla/appla.html>